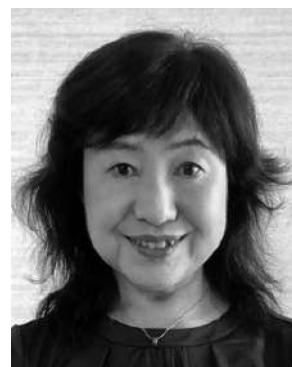


## 2022年度のボランティア・ NPO 活動センターをふりかえって

センター長 筒井のり子



本センターは2001年度創設以来、さまざまな組織や人々と連携、交流を深め、学内外におけるボランティア活動の振興が図れるように事業を実施してきました。2022年度は引き続きコロナ禍の影響での活動制限はありましたが、感染状況を注視しながら徐々に対面での活動も再開することができました。多くの方々のご協力、ご支援をいただきましたことに改めてお礼申し上げます。

以下、主なものを紹介します。

### <ボランティアコーディネートの充実>

2022年度は行動制限が徐々に緩和されたことから学生の活動意欲も増し、相談件数は前年度と比べて増加しました。コロナ禍で活動や行事を休止していた団体も多いため、コーディネーターは活動状況や学生との協働の態勢について丁寧な確認を行い、本学と地域社会をつなぐボランティアコーディネーションを展開しました。同時に、学内のサークルに対しても「サークル×ボランティア活動相談会」を開催し、運営のサポートを行いました。

### <ボランティアリーダーの育成>

初心者向けの「ボランティア入門講座」は、2022年度から「オンデマンドの動画視聴+受け入れ団体の話を聴く」という形に変更しました。次の段階の「ボランティア体験」に向けて学生の団体への理解と主体的な参加を促進することができました。「ボランティアリーダー養成講座」は夏と春に2回開催し、センターの学生スタッフや他サークルのリーダー等へも学びの場を提供することができました。また、深草キャンパスの教養教育科目特別講義「ボランティア・NPO入門」（前期）への協力、さらに「ボランティアコーディネーション力3級検定」（JVCA）の共催も行いました。

### <国内・海外体験学習プログラム>

体験を通じた「学び」に主眼を置く企画として、国内と海外のプログラムを計4回実施しました。

夏季は、2021年度に実施予定のところコロナ感染状況により現地訪問が延期されていた「福島スタディツアー」と、滋賀県の農場やJICA 関西の協力のもと海外体験学習プログラムを実施しました。春季には、「アフガニスタンの今と未来」をテーマとする海外体験学習プログラムと、「福島スタディツアー」を実施しました。また、夏季春季ともに事後報告会を実施しました。

### <学生スタッフ企画>

両センターの学生スタッフによるボランティア実践やボランティア活動へのきっかけ作りなどの企画として、2022年度は「ウクライナへの募金企画」「『身近なところからSDGs』ワークショップ」「大津祭 ボランティア協力」「多世代交流みんなほほえみ計画（守山市内児童館）」「ふかくさ輝っず児童館交流ボランティア～龍谷キッズふれあいパーク～」 「龍谷祭での展示・模擬店」など多様なプログラムが展開されました。その他、深草・瀬田それぞれで、複数の「班活動」が展開されました。

### <災害復興支援の取り組み>

2020-21年度は被災地に赴いての活動はできませんでしたが、2022年度は3年ぶりに宮城県にて活動することができました。定員を超える申込みがあり学生の関心も引き続き高いことがわかりました。また、昨年度新たに設置された「災害復興支援ボランティア委員会」（本センターが事務局）において、「災害発生時の本学及び周辺の被災者支援ボランティア活動」のあり方についての検討が開始されました。

以上、人と人が出会うこと、現場に出て体験することの重要性を認識して今後もさまざまな工夫をしていきたいと思えます。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。